

各教科の分析結果（合格者の中から、無作為に抽出した650人（12.9%）の結果）

国 語

1 得点分布及び小問ごとの正答率

表1 得点分布

得点	人数	650人	
	人数	人数	%
100	0	0	0.0
90～99	6	6	0.9
80～89	43	43	6.6
70～79	123	123	18.9
60～69	174	174	26.8
50～59	143	143	22.0
40～49	100	100	15.4
30～39	42	42	6.5
20～29	19	19	2.9
10～19	0	0	0.0
1～9	0	0	0.0
0	0	0	0.0

* 合格者の中から、無作為に抽出した650人(12.9%)の結果である。

* %の数值は、小数点第2位を四捨五入したものである。

表2 小問別正答率(%)

大問	小 問	正答率
㊦	問一	㉠ 90.8
		㉡ 93.7
		㉢ 92.5
	問二	A 95.5
		B 77.8
	問三	65.5
	問四	61.5
	問五	54.0
	問六	56.3
	小計	68.8
㊧	問一	㉠ 80.6
		㉡ 98.0
		㉢ 66.0
	問二	75.4
	問三	55.9
	問四	50.8
	問五	61.7
	問六	19.8
小計	57.4	

大問	小 問	正答率
㊨	問一	75.3
	問二	76.9
	問三	86.5
	問四	36.6
	問五	23.0
小計	49.2	
㊩	問一	95.6
	問二	87.5
	問三	71.1
	問四	33.1
	問五	1 53.3
		2 21.1
	問六	69.2
小計	58.9	

表3 大問別の正答率の経年比較

大 問	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
㊦ 文学的文章	64.3	62.0	62.0	64.3	68.8
㊧ 説明的文章	64.4	52.9	50.3	62.8	57.4
㊨ 活用問題	44.5	67.6	38.4	42.0	49.2
㊩ 古典	51.5	45.4	59.4	51.2	58.9

2 分析結果の概要

合格者の国語の平均点()は、58.2点で、昨年度と比べ上昇した(昨年度55.3点)。

()平均点は全日制すべての合格者5,037人のものである。

表1 について、70点以上の人数は全体の26.4%で、昨年度に比べ増加した(昨年度21.7%)。40点未満の人数は全体の9.4%で、昨年度に比べ減少した(昨年度14.9%)。60点～69点を中心として、ほぼ正規分布となっている。

表2 について、正答率80%以上の問題数は9問で、基礎的・基本的な知識・理解を問う問題の正答率が高かった。具体的には、文語のきまり(㊩の問一)、漢字の読み書き(㊦・㊧の問一)、語句の文脈上の意味(㊦の問二)などである。一方、正答率40%未満の問題数は5問で、文章や資料から読み取った情報を思考・判断して表現する問題の正答率が低かった。具体的には、文章の構成や展開について評価する問題(㊧の問六)、伝えたい意見や事柄について、資料を適切に引用したり、説明や具体例を加えたりして、説得力のある文章を書く問題(㊨の問四・問五)などである。

表3 について、㊦の文学的文章を表現に即して読み味わう問題、㊨の文章や資料を活用して自分の考えをまとめる問題、㊩の古文と漢文を読み比べて内容をまとめる問題等の正答率は、昨年度より高かった。一方、㊧の説明的文章を正確に理解してまとめる問題の正答率は、昨年度より低かった。

3 標準解答及び大問ごとのねらい

□ 標準解答

問一	① 潮 ② はんしょく ③ 成功
問二	A ア B ウ
問三	イ
問四	エ
問五	(例)ズフラの綱渡りは、死の恐怖と闘っていたのではなく、生きる喜びを全身で表現していたから、輝いて見えたのだと考えるようになった。
問六	ウ

ねらい

文学的文章において、文脈の中における語句の意味を的確にとらえる力、登場人物の心情や行動を注意して読む力、表現の特徴や効果について評価する力等を見る。
人間が生きていく意味や社会の中における自分の役割などについて考えるという観点にも配慮している。

□ 標準解答

問一	① かたよ り ② すると く ③ 語源
問二	イ
問三	大事なのではないか
問四	(例)子どもが朗読に求めるのは、だれが聞いても耳あたりのよい声ではなく、じぶんがだれかにたいせつにされていると感じられることだから。
問五	ウ
問六	ア

ねらい

説明的文章において、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けて、要約したり要旨をとらえたりする力、文章の構成や展開の仕方について評価する力等を見る。
文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつという観点にも配慮している。

□ 標準解答

問一	ア
問二	めりはりをつける
問三	エ
問四	(例)関連をもたないバラバラの内容をやみくもに頭に詰め込むより、関連をもつ内容を結びつけながら学習すると、楽しく勉強できる
問五	(例)古文の学習で平安時代の文章を読む時に、歴史で習った平安時代の出来事を結びつけると、別々の内容につながりが見えて、勉強が楽しくなり、やる気も高まります。

ねらい

話し合いで出されたアイディアを参考文献やスライドを利用して発表するという場面設定において、話すための材料を人との交流を通して集め整理する力、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用する力、意見が相手に効果的に伝わるように具体例を加えて書く力等を見る。
社会生活にかかわることなどについて、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度や文章を書いて考えを深めようとする態度を育てるという観点にも配慮している。

四 標準解答

問一	たぐいなき
問二	工
問三	有 昇 遷 橋（「有」に二点、「橋」に一点を使用）
問四	イ
問五	1 貧しくて苦しい生活
	2 きっかけ
問六	相如

ねらい

古文と漢文で書かれた素材において、文語のきまりや訓読の仕方などの知識、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読む力、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いなどを想像する力等をみる。

歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむ態度を育てるという観点にも配慮している。

4 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点				正答率
				選択	短答	記述	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識理解	
一	一	文学的文章	文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。								Ⓐ 90.8 Ⓑ 93.7 Ⓒ 92.5
	二		文脈の中における語句の意味を的確にとらえ理解することができる。								A 95.5 B 77.8
	三		登場人物の心情に注意して読み、内容を理解することができる。								65.5
	四		登場人物の行動に注意して読み、内容を理解することができる。								61.5
	五		登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができる。								54.0
	六		文章の構成や展開、表現の仕方について評価することができる。								56.3
二	一	説明的文章	文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。								Ⓐ 80.6 Ⓑ 98.0 Ⓒ 66.0
	二		文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けて、要旨をとらえることができる。								75.4
	三		文の中の主語と述語の照応を踏まえて、文の構成について考えることができる。								55.9
	四		文章の展開について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。								50.8
	五		書き手のものの見方や考え方に知識と体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。								61.7
	六		文章の構成や展開、表現の仕方について評価することができる。								19.8
三	一	活用	話し合いの話題や方向をとらえて的確に話すことができる。								75.3
	二		集めた材料を分類するなどして整理することができる。								76.9
	三		話すための材料を人との交流を通して集め、整理することができる。								86.5
	四		論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して説得力のある文章を書くことができる。								36.6
	五		事柄や意見が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができる。								23.0
四	一	古典	文語のきまりを知り、古典の世界に触れることができる。								95.6
	二		場面の展開や登場人物などの描写に注意して読むことができる。								87.5
	三		訓読の仕方を知り、古典の世界に触れることができる。								71.1
	四		古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いを想像することができる。								33.1
	五		歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。								1 53.3 2 21.1
	六		漢字の行書の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる。								69.2